

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

- Q1. 答え：過去（伝聞） 解説：物語の冒頭定型。「(昔) 男がいた」。伊勢物語の冒頭。
- Q2. 答え：詠嘆（「けらし」＝「けり」連体形「ける」＋推定「らし」の約まった形） 解説：カ変「来」連用形「来（き）」＋完了「ぬ」連用形「に」＋「けらし」。「夏が来たらしいなあ」という気づき・詠嘆。和歌の中の「けり」は詠嘆が原則。なお万葉集の原形は「夏来たるらし…衣干したり」で、「夏来にけらし…衣干すてふ」は新古今集・百人一首の形。
- Q3. 答え：過去 解説：地の文。「京に上った」。単純過去。
- Q4. 答え：詠嘆（気づき） 解説：「(自分が知らなかったが) 今、帰っていたのだなあ」。気づきの詠嘆。
- Q5. 答え：詠嘆（連体形・係助詞「ぞ」の結び） 解説：「ぞ」＋「ける」（連体結び）。「朝顔の花が咲いたのだなあ」。和歌的詠嘆。
- Q6. 答え：過去（伝聞） 解説：体言「僧」の前で連体形。「中国に渡ったとかいう僧」。伝聞調。
- Q7. 答え：詠嘆 解説：和歌の中なら詠嘆「月が清く照っているなあ」。
- Q8. 答え：詠嘆（気づき） 解説：『たり』連用＋『けり』。「(知らなかったが) まだ生きていたのだなあ」。
- Q9. 答え：過去 解説：単純な過去の事実。「嵐山に登った」。
- Q10. 答え：過去 解説：「(昨夜) 心安く眠った」。地の文の過去。
- Q11. 答え：詠嘆（連体形・「ぞ」の結び） 解説：「ぞ」＋「ける」（連体結び）。「花が散ったのだなあ」。
- Q12. 答え：過去「けり」已然形「けれ」＋接続助詞「ば」（原因） 解説：「照り」連用＋「けれ」＋「ば」。「月が清く照っていたので、夜もなお明るい」。
- Q13. 答え：詠嘆（気づき） 解説：「(知らなかったが) 父が静かに眠っているのだなあ」。
- Q14. 答え：詠嘆 解説：「雪が降っていたのだなあ」。気づきの詠嘆。
- Q15. 答え：過去 解説：物語の典型。「男が女のところに通っていた」。伊勢物語に多い。
- Q16. 答え：過去 解説：地の文。「風が吹き、波が荒く立った」。
- Q17. 答え：過去（伝聞・連体形） 解説：「人」（体言）の前。「たいそう感じ入って素晴らしいと評判だった人」。
- Q18. 答え：過去 解説：「文を書いた」。
- Q19. 答え：詠嘆 解説：断定「なり」連用＋「けり」。「(やはり) 子を持つ親であったのだなあ」と詠嘆。
- Q20. 答え：過去 解説：「お亡くなりになった」。歴史的事実の過去。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

- Q21. 答え：過去または詠嘆（「なむ」係助詞の連体結び） 解説：「なむ」→連体形結び。和歌中なら詠嘆、散文なら過去。
- Q22. 答え：過去または詠嘆（「こそ」係助詞の已然結び） 解説：「こそ」→已然形結び。和歌中なら詠嘆。
- Q23. 答え：過去・疑問（「や」の連体結び） 解説：「や」係助詞→連体結び。疑問「聞こえたのか」。
- Q24. 答え：過去・疑問（「か」の連体結び） 解説：「か」係助詞→連体結び。
- Q25. 答え：過去 解説：「帝はたいそうお思いになった」。地の文の過去。

- Q26. 答え：過去「けり」已然形「けれ」＋接続助詞「ど」（逆接） 解説：「降り」連用＋「けれ」＋「ど」。「雪が降ったけれど、出なかった」。
- Q27. 答え：過去 解説：和歌を「詠んだ」という地の文。過去。
- Q28. 答え：過去 解説：地の文での「詠んだ」。歌そのものではない。
- Q29. 答え：（参考）「らし」推定 解説：傍線部はけりではなく「らし」。「春来にけ」（「春が来た」＋完了「に」）＋推定「らし」。「春が来ているらしい」。
- Q30. 答え：過去 解説：「見」連用＋「ける」連体＋体言「夢」。「私が見た夢が、まさに現実になった」。
- Q31. 答え：過去「けり」已然形「けれ」＋接続助詞「ば」（原因） 解説：形容詞カリ活用連用＋「けれ」＋「ば」。
- Q32. 答え：詠嘆 解説：完了「ぬ」連用「に」＋「けり」。「に＋けり」は感慨表現で詠嘆になりやすい。「いつのまにか日も暮れてしまったのだなあ」。
- Q33. 答え：（過去「けり」を含まない、参考問題） 解説：「たる」は完了「たり」。「けり」との混同に注意。
- Q34. 答え：詠嘆 解説：「に＋けり」（完了＋詠嘆）。「鶯が鳴かなくなって久しくなったのだなあ」。
- Q35. 答え：詠嘆 解説：打消「ず」連用「ざり」＋「ける」連体形。文末連体留めは詠嘆的余情。「私が知らなかったことが多いのだなあ」。
- Q36. 答え：過去 解説：「詠みけり」は地の文の過去。
- Q37. 答え：過去「けり」已然形「けれ」＋接続助詞「ど」（逆接） 解説：「思ひ」連用＋「けれ」＋「ど」。「たいそう哀れと思ったけれど、口に出さなかった」。
- Q38. 答え：過去 解説：「降らせたまひ」（使役＋尊敬の二重？「降らせ＋たまふ」）連用＋「けり」。歴史的事実の過去。
- Q39. 答え：詠嘆 解説：感嘆詞「あはれ」を伴う。「ああ、夢だったのだなあ」。気づきの詠嘆。
- Q40. 答え：詠嘆（連体形・余情） 解説：完了「ぬ」連用「に」＋「ける」連体。「散ってしまった桜が、なお惜しまれる」。詠嘆的余韻。
- Q41. 答え：詠嘆 解説：「老いに＋けり」。「私もまた老いてしまったのだなあ」。気づき。
- Q42. 答え：過去 解説：地の文の過去。「中宮はご覧になって、お思いになった」。
- Q43. 答え：過去（連体・伝聞） 解説：「住み」連用＋「ける」＋体言「人々」。「故郷に住んでいた人々」。
- Q44. 答え：過去「けり」已然形「けれ」＋接続助詞「ど」（逆接） 解説：「見」連用＋「けれ」＋「ど」。「明け方の月を見たけれど」。
- Q45. 答え：過去 解説：「疑った」。心情描写の過去。
- Q46. 答え：過去（連体形・「ぞ」の結び） 解説：「ぞ」係助詞→連体結び。地の文の「詠まれた」。
- Q47. 答え：形容詞ク活用已然形語尾「けれ」（過去「けり」ではない） 解説：「遠し」（ク活用）已然「遠けれ」＋「ど」。識別最難関の引っ掛け。直前が連用形でないので過去ではない。
- Q48. 答え：詠嘆 解説：形容詞カリ活用連用「いみじかり」＋「けり」。詠嘆「すさまじかったのだなあ」。
- Q49. 答え：過去（連体形） 解説：「告げ」連用＋「ける」＋体言「人」。「私に告げた人はいない」。
- Q50. 答え：詠嘆（連体形・「ぞ」の結び） 解説：百人一首・源宗于。「ぞ」→連体「ける」結び。「山里は冬こそ寂しさが増すものだったのだなあ」。和歌中の詠嘆典型。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

- Q51. 答え：過去 解説：尊敬「思しめす」連用＋「けり」。「たいそう可愛いとお思いになった」。

Q52. 答え：過去 解説：「住み」連用＋「ける」連体＋体言「里」。

Q53. 答え：過去「けり」已然形「けれ」＋接続助詞「ば」（原因） 解説：形容動詞ナリ連用＋「けれ」＋「ば」。

Q54. 答え：（参考）反実仮想「まし」 解説：傍線部はけりではなく「まし」。「言はまし＋かば」（反実仮想の標準形）。「『あわれ』と誰が言うだろうか、と思ったならば、どうだっただろう」。

Q55. 答え：詠嘆（連体・連体留め余情） 解説：「生まれ」連用＋「ける」。「（自分が）昔に生まれたような気がする」と気づき余情。

Q56. 答え：詠嘆 解説：丁寧「侍り」連用＋「けり」。詠嘆「万事しみじみと感じられたのだなあ」。

Q57. 答え：過去 解説：「御覧じ」連用＋「ける」＋体言「夜」。

Q58. 答え：過去「けり」已然形「けれ」＋接続助詞「ば」（原因） 解説：「目覚め」連用＋「けれ」＋「ば」。

Q59. 答え：過去 解説：「思った」。心情描写。

Q60. 答え：過去（連体形・「なむ」の結び） 解説：「なむ」係助詞→連体結び。

Q61. 答え：（参考）現在推量「らむ」 解説：傍線部はけりではなく「らむ」。「わびしかる」（形容詞補助活用カリ連体）＋「らむ」。「どのように吹くと侘しいのであろう」。

Q62. 答え：過去 解説：「問ひ」連用＋「けり」。「お使いの帰った人に、たいそう丁寧に尋ねた」。

Q63. 答え：過去・詠嘆（「こそ」の已然結び） 解説：「こそ」係助詞→已然結び。

Q64. 答え：過去 解説：「聞き直し」連用＋「けり」。

Q65. 答え：過去・疑問（「や」の連体結び） 解説：「や」係助詞→連体結び。「聞こえたのか」と疑問。

Q66. 答え：過去「けり」已然形「けれ」＋接続助詞「ば」（原因） 解説：「積もり」連用＋「けれ」＋「ば」。

Q67. 答え：過去 解説：「詠んだ」。地の文。

Q68. 答え：過去（連体形） 解説：完了「たり」連用＋「ける」＋体言「人々」。

Q69. 答え：形容詞シク活用「悲し」已然形語尾「けれ」（過去「けり」ではない） 解説：「悲しけれ」はシク活用形容詞の已然形。引っかけ。直前は連用形ではない。

Q70. 答え：詠嘆 解説：心情の気づき。「物悲しくなったのだなあ」。

Q71. 答え：過去・詠嘆（「ぞ」の連体結び） 解説：「ぞ」係助詞→連体結び。

Q72. 答え：過去 解説：「侍り」連用＋「けり」。

Q73. 答え：過去 解説：「見」連用＋「ける」＋体言「世界」。

Q74. 答え：過去「けり」已然形「けれ」＋接続助詞「ど」（逆接） 解説：「侍り」連用＋「けれ」＋「ど」。

Q75. 答え：過去 or 詠嘆 解説：感情のクライマックス。詠嘆と読むのが自然。「いっそう思いがつのったのだなあ」。

Q76. 答え：詠嘆（連体形・「ぞ」の結び） 解説：「あり」連用＋「ける」。ラ変「あり」＋「けり」は理想化された詠嘆。「（願わしい状態であったのだなあ）」。

Q77. 答え：過去 解説：「住んでいた」。物語的過去。

Q78. 答え：詠嘆（連体形・「ぞ」の結び） 解説：形容詞カリ活用連用＋「ける」。気づきの詠嘆。「知らないことが多いのだなあ」。

Q79. 答え：過去・詠嘆（「こそ」の已然結び） 解説：打消「ず」連用「ざり」＋「けれ」。

Q80. 答え：詠嘆 解説：「夢ほどに見えたあの面影さえもなくなったのだなあ」。和歌的詠嘆。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 答え：過去 解説：物語冒頭の地の文。「住んでいた」。

Q82. 答え：過去（連体形） 解説：「詠み」連用＋「ける」＋格助詞「を」。「詠んだのを聞いて」。

Q83. 答え：過去 解説：「行った」。地の文。

Q84. 答え：（過去「ける」を含まない、参考問題） 解説：この歌に「ける」はない。識別練習として除外確認。

Q85. 答え：（「けり」を含まない、参考問題） 解説：「ぞ＋思ふ」（連体結び）。「けり」識別問題ではない。

Q86. 答え：（「る」は完了「り」連体形、「ける」ではない、参考問題） 解説：「詠める」は完了「り」（サ変・四段已然接続）。「詠んだ歌」の意。「ける」との混同に注意。

Q87. 答え：過去 解説：地の文の「詠んだ」。

Q88. 答え：（完了「り」連体形「る」、参考問題） 解説：「詠める」の「る」は完了「り」連体形。「ける」との識別注意。

Q89. 答え：詠嘆 解説：完了「ぬ」連用「に」＋「けり」。気づきの詠嘆。「帰ってしまったのだなあ」。

Q90. 答え：（「らむ」現在推量、参考問題） 解説：「らむ」は現在推量。「ける」識別問題ではない。

Q91. 答え：詠嘆（連体形・「ぞ」の結び） 解説：「ぞ」→連体「ける」結び。「世の中の人々の心の花であったのだなあ」。和歌中の詠嘆典型。最頻出。

Q92. 答え：過去「けり」已然形「けれ」＋接続助詞「ば」（原因） 解説：「思ひ」連用＋「けれ」＋「ば」。

Q93. 答え：（「ける」を含まない、参考問題） 解説：「たる」（完了「たり」連体形）。

Q94. 答え：過去（連体形・「ぞ」の結び） 解説：「ぞ」→連体「ける」結び。地の文の過去または詠嘆。「（そう）思ったのだ」。

Q95. 答え：過去（連体形） 解説：尊敬「たまふ」連用＋「ける」＋体言「中」。「（多くの女御や更衣がお仕えしていらっしゃる）中で」。源氏物語冒頭・難関大最頻出。

Q96. 答え：過去 解説：「あり」連用＋「けり」。冒頭の有名な「ありけり」。

Q97. 答え：（「けり」を含まない、参考問題） 解説：平家物語冒頭は「あり」「同じ」など終止／断定が多く「けり」は使われない。識別の引っかけ。

Q98. 答え：形容詞シク活用「ものぐるほし」已然形語尾「けれ」（過去「けり」ではない） 解説：「こそ＋ものぐるほしけれ」（係り結び・已然形結び）。シク活用形容詞の已然形であり、過去「けり」ではない。最頻出引っかけ。

Q99. 答え：（「けり」を含まない、参考問題） 解説：方丈記冒頭は完了「たり」連体形「たる」が中心。「けり」識別問題と区別。

Q100. 答え：過去（連体形・「なむ」の結び） 解説：「なむ」係助詞→連体「ける」結び。『『あれは何か』と男に問うたのだ』。伊勢物語芥川段・難関頻出。